

令和5年度 東京都内湾水生生物調査 9月成魚調査速報

●実施状況

令和5年9月7日に成魚調査を実施した。調査当日は小潮で、満潮が10時32分、干潮が14時21分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は1.5~2.9mであった。また、St.10において赤潮が確認された。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	9:56-10:48		11:02-11:46		11:53-12:49		12:49-13:34	
水深(m)	26.1		14.0		14.5		8.9	
天候	曇り		晴		曇り		曇り	
気温(°C)	28.0		29.3		29.2		29.4	
風向/ 風速(m/sec)	NE/4.5		NE/4.7		NE/5.0		NE/5.4	
波浪(m)	0.4		0.4		0.4		0.4	
透明度(m)	2.0		1.6		2.9		1.5	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	28.2	21.0	28.2	24.9	28.4	24.7	28.5	27.9
塩分(-)	28.9	33.9	22.0	31.9	28.9	32.3	27.2	29.0
DO(mg/L)	7.9	1.0	10.3	1.5	6.7	0.5	9.8	4.3
DO飽和度(%)	119.1	13.6	150.2	22.4	101.2	6.6	146.7	64.2
pH(-)	8.4	7.8	8.3	8.1	8.4	8.2	8.5	8.3
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考							赤潮が確認された。	

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	(出現せず)	(出現せず)	(出現せず)	(出現せず)
魚類以外 (目立った種)	ホンビノスガイ(r) イガイ科(r)	ホンビノスガイ(r) イガイ科(r)	ホンビノスガイ(r)	ホンビノスガイ(c) サルボウガイ(r)
備考	上記の他、ムラサキイガイ、タイラギ、ハナムシロ、モミジボラ等の死殻が確認された。	上記の他、ウスカラシオツガイが確認された。また、トリガイ、ゴイサギ、キセワタガイ、チヨノハナガイ等の死殻も確認された。揚網中にトウゴロウイワシが入網した。	上記の他、ウミタケ、チヨノハナガイ、ウラカガミ、アカガイ等の死殻が確認された。揚網中にカタクチイワシが入網した。	上記の他、バイ、シマメノウフネガイ、イセシラガイ、マメウラシマ等の死殻が確認された。

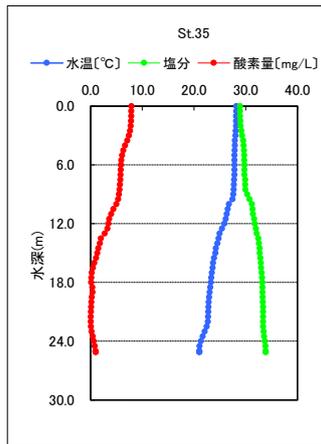
注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35
調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



北米原産の外来種で、殻長 10cm を超える大型種。殻は本来白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。東京湾では湾奥部の泥底やカキ礁周辺で多くみられる。近年、主に千葉県で漁獲されたものが市場に流通している。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



岩盤や貝殻などの基盤に足糸を分泌して固着する二枚貝で、お互いの足糸を絡め合せて高密度に群生する種類もある。水深や塩分等で生育する種に違いがみられる。出現したのは幼貝であった。

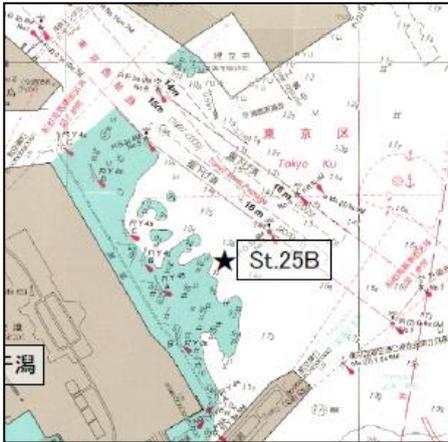


地中海沿岸が原産の外来種。潮間帯の岩等の硬い基盤に足糸で固着する。漁網、ロープ等の漁具や漁船の船底に大量に付着し汚損被害を生じるだけでなく、夏季の高温により大量にへい死し、それらの腐敗により水質汚染が発生することがある。東京湾内では近年減少している。

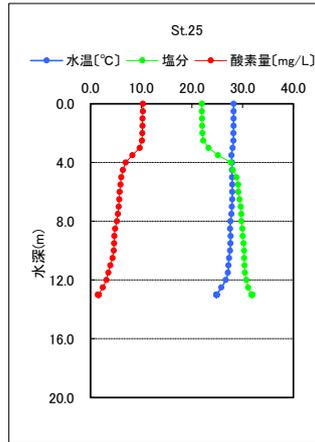


殻長 25cm を超える大型の二枚貝。尖った側を下にして海底に突き刺さったように生息している。東京湾の湾奥部では、春から秋にかけて発生する貧酸素水塊で死滅するため、殻長 10cm 程までしか成長できない。

調査地点：St.25
調査地点位置



水質状況

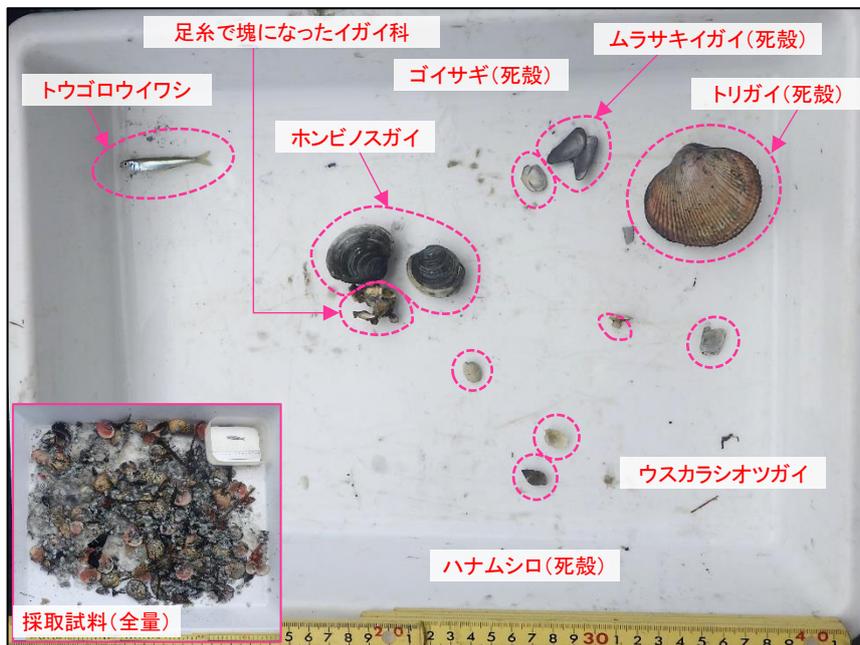


地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



トウゴロウイワシ

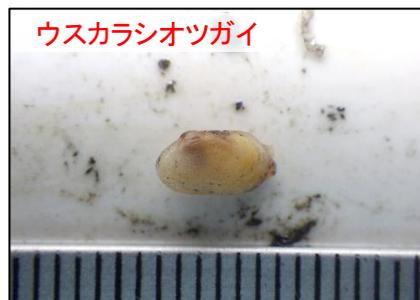
網を揚げた際にトウゴロウイワシが入網した。東京湾では湾奥から外湾にかけての沿岸で普通にみられる。産卵期は夏で、秋にかけて仔魚が東京湾全域に出現する。イワシと名前がつくが、鱗が剥がれにくく、背鰭が2つあるところからイワシよりもボラに近い仲間。

【調査対象外】

主な出現種 ※写真のスケール 1目盛:1mm



※解説は St.35 を参照。



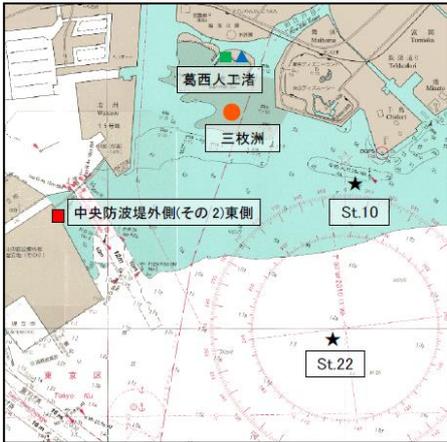
殻長 2cm 程度の卵型をした二枚貝。殻は薄く、もろい。外来種であるが、原産地は不明。



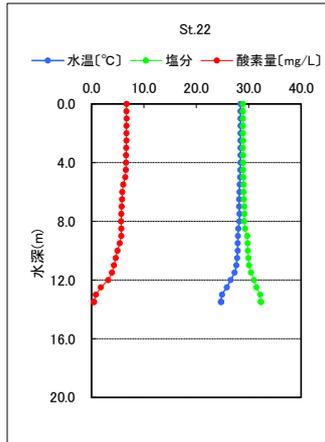
水深 30m までの砂泥底に多く生息するウミウシ。巻貝の仲間で、生存時、殻は体の中に埋没している。小型の貝類等を捕食している。



調査地点：St. 22
調査地点位置



水質状況



地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



※解説は St.35 を参照。
本地点では比較的大型の個体が確認された。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



殻長 8 cm 程のニオガイ科の仲間。薄く割れやすい殻はよく膨らみ、前後端は広く開いている。殻よりも大きく長い水管が特徴。環境悪化に弱く、東京湾では稀に死殻が確認される。



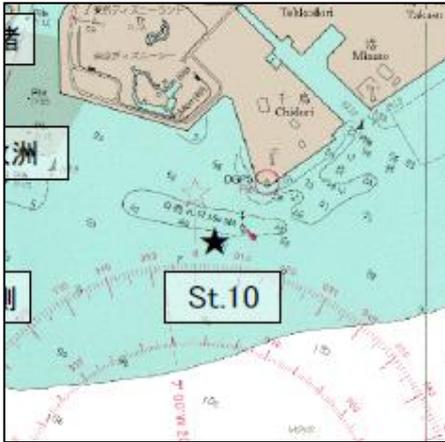
網を揚げた際にカタクチイワシが入網した。東京湾の表層域では最も個体数の多い魚種であり、大きな群れをなして生活する。下顎が短く、上顎だけにみえることから、片口(かたくち)の名前が付いている。



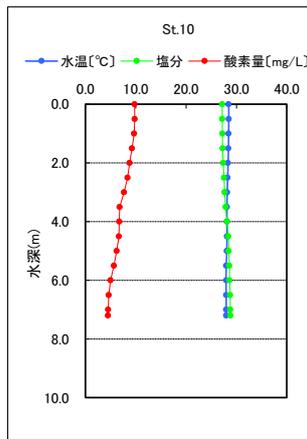
近縁のアマモよりも小型で、浅い砂泥地に生える海草。地下茎や種で増える。アマモ類は水質を浄化するほか、生物の産卵・生息場所として非常に重要。本地点の水深では生育しないため、浅い砂泥域から流されてきたものと考えられる。

【調査対象外】

調査地点：St.10
調査地点位置



水質状況



地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



干潟、潮間帯上部から水深 20m の砂泥地、汽水域等に多く生息する。幼生期をアマモ等に付着して過ごし、成長するに従い砂泥地にもぐり込む。よく似た貝にアカガイがあるが、殻表面の縦筋の数で本種と区別できる(サルボウガイ 32 本、アカガイ 42 本)。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



※解説は St.35 を参照。
本地点で採取された個体は小型のサイズであった。



殻長 5cm を越える、スリッパ型の形状をした巻貝。主に他の貝類の殻上に付着して生活する。北米原産の外来種で、現在日本において分布域を拡大している。



水深 5m 以深の泥底に生息する小型の巻貝。厚く光沢のある殻を持つ。